

Support



**NO.4
令和7年10月27日
編集・発行
学校支援課 広報担当**

<http://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/gakko/index.html>

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果を受けて

新潟市の平均正答率、質問調査で特徴が見られた 3 項目については、「新教支第914号」でお伝えし、各校での調査結果の活用をお願いしました。

今回は、児童生徒への質問と教科調査結果を分析した結果をお伝えします。各校の取組の継続、改善、挑戦に役立ててください。

1 質問調査結果(児童生徒・学校)

学習指導要領の趣旨を踏まえた取組

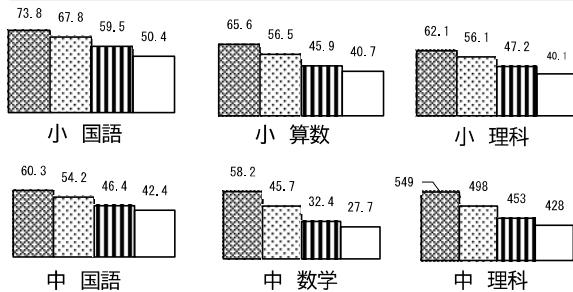
課題の解決に向けて自分から取り組んだと考える子どもほど、学力が高い傾向

課題の解決に向けて自分から取り組んだ



選択肢ごとの教科の正答率・スコア

 当てはまる  どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない  当てはまらない



R3 から継続して 80% の児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考えています

- ・課題・まとめ(振り返り)のある授業の継続の成果
 - ・これからも何を学んでいるかを意識して自ら課題解決に取り組む子どもを育てましょう

今後は…

小学校算数では、下の問題の正答率が19%でした。しかし、これをどう考えればよいでしょうか。

$\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ を計算しましょう。

の正答率は、81%でした。



$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の 3 個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の 2 個分です。
 もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

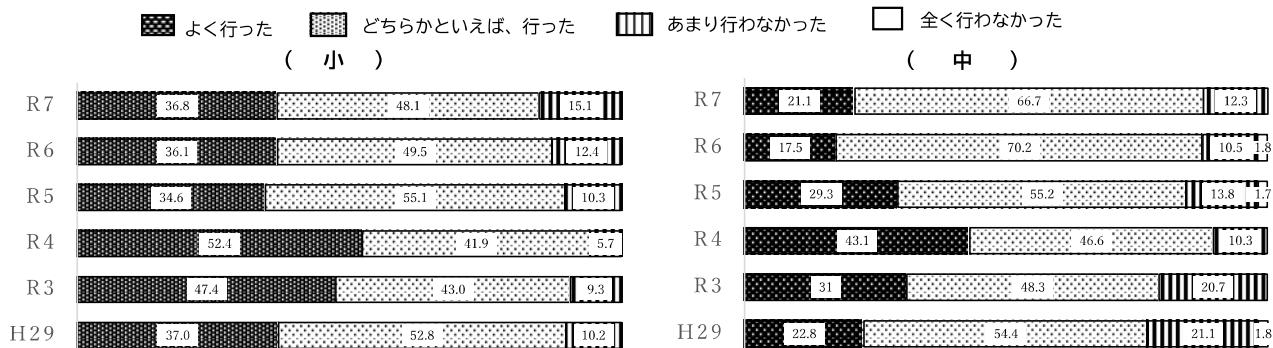
$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

通分という1つの事項を覚えた、計算問題が解けたなど、理解の質が「知っている・できる」にとどまつていて、「わかる」に達していないのではないかと分析できます。確かに私たちは、子どもが「できた!」や「方を覚えれば簡単!」といったその場での成功体験を大事にする傾向があると思います。それも大事です。でも、こうした学びでは子どもが深く考える必然性や時間は生まれません。深い学びにするには、答えがすぐには分からない問い合わせについて、教師が粘り強く問い合わせる中で、様々な視点からグループで話し合うなどして、子どもに思考することを要求する授

業が大事ではないでしょうか。こうした授業は、どのように展開していくのか想定しづらい面があるため、教師にとって怖さがあるのも事実です。しかし、学校という協働的に学べる場だからこそ、分からなさを共有して支え合いながら、最後に自分たちでうまく考えられたという喜びを味わわせたいのです。そうした時間を生み出す単元デザインに挑戦してみませんか。

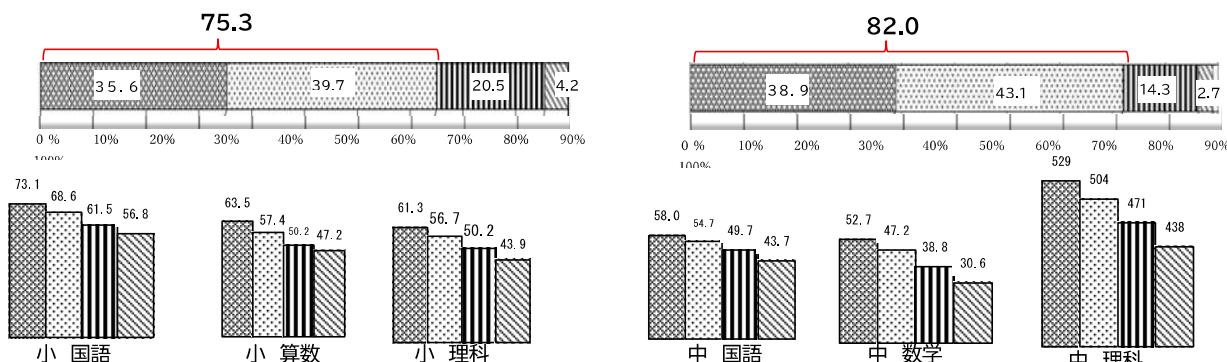
「前年度までに、授業において、児童(生徒)自ら学級やグループで問題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたか。」という学校質問の経年変化では、肯定的な回答の数値に大きな変化がないものの、「よく行った」だけを見ると、令和5年度より大きく減少に転じています。ぜひ、挑戦してみてください。



ICT 機器の活用 情報活用能力の育成 自信がある子どもほど、学力が高い傾向

プレゼンテーション(発表のスライド)を作成できる

とてもそう思う
そう思う
あまりそう思わない
そう思わない



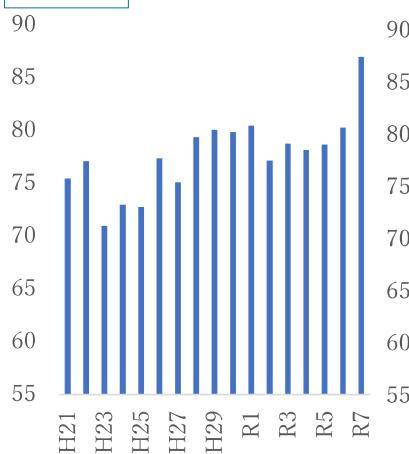
新潟市の子どものICT活用率、情報活用能力は全国トップレベルです

「とにかく使う」段階から、授業のどこでどんな目的で使うか、情報活用能力を意識して、活用場面を工夫ていきましょう

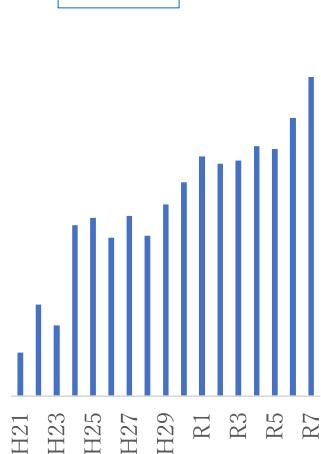
ウェルビーイング

自分には、よいところがあると思う

小学校



中学校



小学校・中学校ともに、85%以上が「自分にはよいところがあると思う」と回答しています。

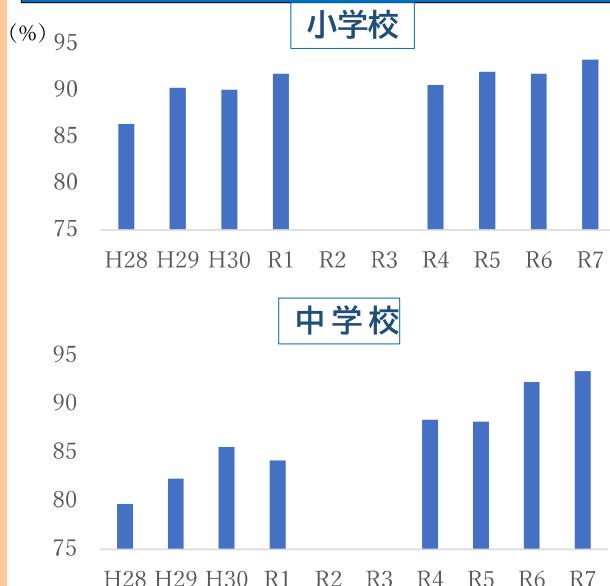
そして、この17年間で増加傾向にあります。特に中学校では、平成21年度調査の59.2%であったのが、本年度は85.6%になりました。

子どもたちの自己肯定感がこんなにも上がっていることをお伝えし、教職員の皆さんと共有することができてとても嬉しく思います。その背景には、次ページで示す教職員と子どもたちとの信頼関係があるものと考えられます。

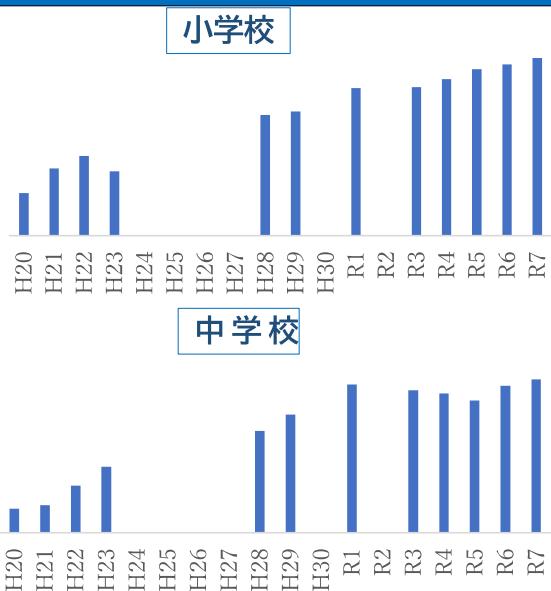
ウェルビーイング 増加傾向

先生が自分のよいところを認めてくれていると思っている子どもほど、学校が好き、国語・算数・数学が好きと回答しています。先生との信頼関係が子どもの幸福度を上げています。

先生は自分のよいところを認めてくれていると思う



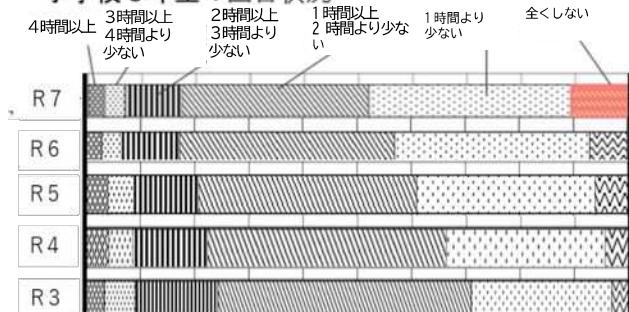
人が困っているときは、進んで助けている



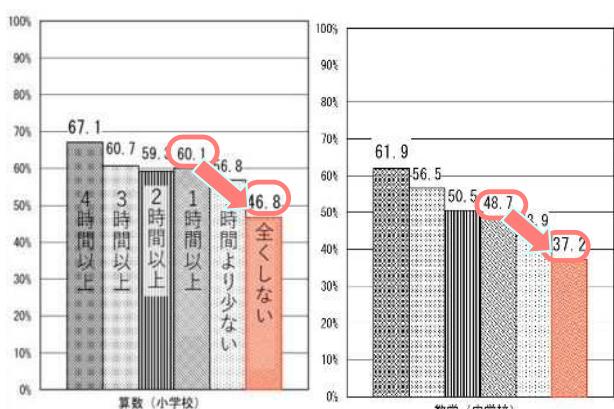
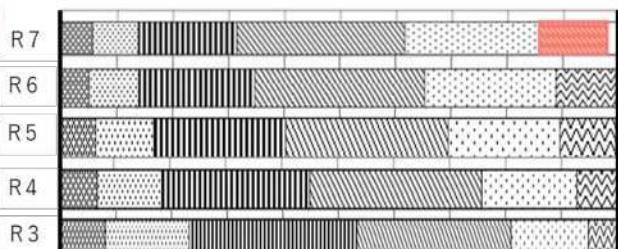
学校外での過ごし方

学校の授業時間以外の勉強時間は、小・中学生とも、令和3年以降、平日、休日いずれも減少傾向。

小学校6年生の回答状況



中学校3年生の回答状況



左は、学力とのクロス集計です。

「1時間以上する」と「全くしない」とでは、小学校算数の正答率で13.3、中学校数学で11.5の差がありました。

いかに、全くしない、子どもを減らすか、をはじめとして、市教委と学校とが連携した取組が必要だと考えていました。L-Gateに搭載されている「ドリルパーク」の活用をぜひお願いします。また、子どもたちに向けた「じぶんまなびガイド」も配信しています。活用の呼び掛けをお願いします。

2

教科に関する調査結果(算数・数学)

- 数直線上の分数を捉えることや、百分率の倍を使って捉え直し表現することに課題が見られた。
- 素数の理解や、あらかじめ書かれている図形の証明を評価・改善することに課題が見られた。
→基準となる数を見いだし数量の関係を捉えさせることや、数学的な用語や表現について知識の習得と習得した知識を活用する活動を行き来しながら理解を深めていくことが重要。

**小学校算数
大問3(3)**

数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかみる問題



数直線上に示された数を分数で書く。

正答正答率
34.8%

$$\text{ア : } \frac{1}{3} \quad \text{イ : } \frac{5}{3} \quad \text{または } 1\frac{2}{3}$$

誤答例

$$\text{イを } \frac{5}{6} \quad \text{または } \frac{2}{3} \text{ と解答}$$

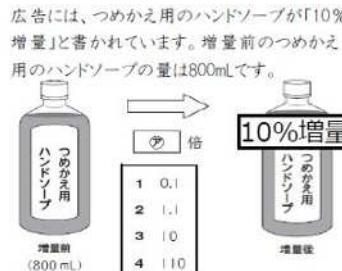
数直線上に示された1より大きい分数として捉えて表すことができない児童が多い。

※大問3(4)分母の異なる分数の足し算 ($\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$) はできている。(正答率 79.7%)

★分数の意味をきちんと理解することよりも、計算ができることに指導の重きが置かれているのではないか。

**小学校算数
大問4(4)**

「10%増量」の意味を解釈し、「増加後の量」が「増加前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題



增量後のハンドソープの量は、增量前のハンドソープの量の何倍ですか。(選択肢式)

10%増量のつめかえ用のハンドソープの量が、增量前の何倍か選択する。

正答 正答率 42.2%	1.1倍
誤答例	0.1倍 10倍

「10%増量」とは、增量前の量の1.1倍の量であることが理解できていない児童がいる。

中学校数学 大問1

1から9までの数の中から素数を全て選ぶ問題

正答正答率
23.2%**2, 3, 5, 7****誤答例**

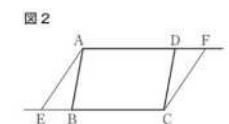
1や9を含める。または2を含めないなどの解答

素数の意味を理解していない生徒がいる。

※正答率は全国(31.8%)、新潟県(29.1%)を大きく下回っている。★素因数分解や多くの数に関する問題に繋がることを踏まえ、確実に指導したい。

**中学校数学
大問9(2)**

統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる問題



(2)次の図2のように、平行四辺形ABCDの辺CB, ADを延長した直線上に、BE=DFとなる点E, Fをそれぞれとっても、四角形AECFは平行四辺形になります。このことは、前ページの証明1の一部を書き直すことで証明できます。書き直すことが必要な部分を、下のアからオまでのなかから一つ選び、正しく書き直しなさい。

ア 平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、
AD // BC
よって、AF // EC①
イ 平行四辡形の向かい合う辺は等しいから、
AD = BC②
ウ 假定より、
DF = BE③
エ ②, ③より、
AD - DF = BC - BE④
オ より、
AF = EC⑤
③, ⑤より、
1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、
四角形AECFは平行四辺形である。

四角形AECFは平行四辺形となることの証明のうち、変更が必要な部分を選択し、書き直す。

既に書かれている証明が適切かどうかを評価できない生徒がいる。

正答例正答率
36.7%

誤っている部分：エ

$$(誤) AD - DF = BC - BE \quad (正) AD + DF = BC + BE$$

誤答例

- ・エを選択したが、書き直しについては無解答
- ・誤っている部分として、ア・イ・ウを選択

2

教科に関する調査結果(理科)

●差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することに課題が見られた。

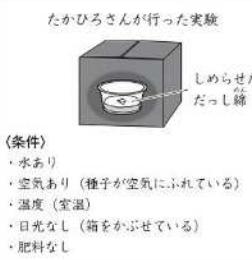
●探究の課程の見通しについて分析して解釈をすることに課題が見られた。

→事象の観察から抽出した要因や実験の結果などの情報を分析して解釈し、判断したり推論したりすることが重要。

小学校理科
大問3(4)

【問題の概要】レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだした問題について書く問題

たかひろさんたちは、レタスの種子を発芽させようとしています。



(条件)

- ・水あり
- ・空気あり（種子が空気にふれている）
- ・温度（室温）
- ・日光なし（箱をかぶせている）
- ・肥料なし

水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるかもしれません。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の《条件》の中から1つ選んで調べてみたい。



(4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

正答例 正答率 25.3%

レタスの種子が発芽するため、日光は必要なのだろうか。

正答の分析

実験の結果を基に、<条件>の日光、肥料の中から1つ選び、レタスの種子が発芽するための条件について新たな【問題】を見いだし、その内容を表現している。このことから、採点や共通点を基に問題を見いだし、その内容を適切に表現することができていると考えられる。

中学校理科
大問9(1)

【問題の概要】予想から学習した内容が反映されたAさんの振り返りを読み、Aさんの予想を判断し、選択する問題

動画を見て、缶がつぶれた理由を予想する。



振り返り：わたしは煙のようなものが上がったので、最初は燃焼が起こって缶がつぶれたと思いましたが液状変化によって缶の内側と外側とで圧力の差ができたからと分かりました。

Aさんの振り返りから、Aさんの予想を選択する。

煙のようなものが上がる化学変化が起ったのではない。

缶の中の水蒸気が水に戻って、体積の変化が起きたと予想する。

缶に水をつけたときに、水に押されたからだろう。

温めると缶の中の空気の体積が大きくなるように、冷えると空気の体積が小さくなると考えた。

正答例 正答率 30.4%

煙のようなものが上がる化学変化が起ったのではないか。

正答の分析

「最初は燃焼が起こつて」という振り返りに対して、Aさんの予想を「化学変化が起つたのではないか」と指摘し、Aさんの探究の課程を正しく捉えている。このことから、探究の課程の見通しについて分析して解釈できていると考えられる。

小学校、中学校とともに、資質・能力を育むために重視する探究の過程を意識した問題が多かった。理科における探求の過程とは、【自然事象に対する気付】 → 【課題の設定】 → 【仮説の設定】 → 【検証計画の立案】 → 【観察・実験の実施】 → 【結果の処理】 → 【考察・推論】 → (振り返り) → 【表現・伝達】である。知識・技能の定着も大切だが、普段の授業から探究の課程を意識して指導し、児童生徒に探究の過程を自覚させることが大切である。